

平良賀計先生沖縄県功労章受章
 金城幸善先生日本医師会最高優功賞受賞 祝賀会
 平安常良先生瑞宝小綬章受章



常任理事 稲田 隆司



左より金城幸善先生と準子夫人、平良賀計先生と正子夫人、平安常良先生と哲子夫人

この度の平良賀計先生沖縄県功労章受章、金城幸善先生日本医師会最高優功賞受賞、平安常良先生瑞宝小綬章受章を心よりお祝い申し上げます。先生方の受賞を称えた祝賀会が平成22年11月30日（火）沖縄ハーバービューホテルクラウンプラザにて行われました。多くの会員や病院関係者をご出席され慶びを共にされました。

はじめに主催者を代表して宮城会長より本県の保健、医療活動を通し県民生活の向上発展に多大な貢献をされた先生方の永年の御労苦に対し、尊敬と感謝の言葉が述べられると共に、県民が希求する安心、安全な医療の提供のため、引き続きのご指導を賜りたい旨の挨拶がありま

した、続いて真栄田篤彦那覇市医師会長、名嘉勝男南部地区医師会長、山内英樹浦添市医師会長により先生方のご功績が紹介された後、来賓を代表して奥村啓子沖縄県福祉保健部長（宮里達也保健衛生統括監代読）より先生方に対しご祝辞が述べられました。

その後、記念品、花束贈呈が行われ、先生方よりお礼のご挨拶が述べられ、新垣善一代議員会議長の乾杯の後、懇親へと移りました。

和気あいあいと先生方への敬意に満ちた祝賀会でした。

なお、先生方のご業績と謝辞を以下のとおり掲載いたします。

挨拶

宮城信雄沖縄県医師会長



本日ここに、平良賀計先生沖縄県功労章受章・金城幸善先生日本医師会最高優功賞受賞・平安常良先生瑞宝小綬章受章祝賀会を開催いたしましたところ、

多くの方々にご参加賜りまして、厚く御礼申し上げます。

先生方のご業績は後程詳しくご披露されますが、平良賀計先生並びに平安常良先生は長年に亘り本県の精神医療の推進に大きく貢献されたご功績により、また、金城幸善先生は長年にわたり公衆衛生事業の発展に貢献されたご功績により、各々栄誉ある賞を受賞されております。

本県の医療の歴史を振り返って見たとき、先生方がこれまで果たしてきた役割はいかに大きなものであったかを改めて認識するものであります。

ここに、先生方の永年のご労苦に対し沖縄県医師会を代表して深甚なる敬意と謝意を表する次第であります。

さて、去る28日（日）沖縄県知事選挙が行われ、沖縄県医師会をあげて応援した仲井眞弘多氏が見事再選を果たしました。

会員の皆様には絶大なるご支援とご協力を賜り、改めてこの場をお借りして感謝申し上げます。

仲井眞知事は、政策目標に「保健医療の充実」と「健康福祉社会の実現」を掲げるなど、保健・医療・福祉への理解を示しており、県民の健康の一翼を担う保健医療関係者として誠に心強い限りであります。本会といたしましても、仲井眞県政とより緊密なる連携を図り、沖縄県の「健康・福祉社会」の実現に向け取り組んでいく所存でありますので、会員の皆様には引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

一方、中央情勢に目を向けてみると、菅首相

は所信表明において国民の社会保障の充実に取り組むと明言しておりましたが、現在にいたるまで何の進展も見せておらず、そればかりかマニフェストに掲げた公約の多くが実行されておられません。

今日に至るまで私共の諸先輩方が、長年にわたって築いてこられた地域医療が崩壊の危機に瀕しています。

我々後進は一丸となって医療行政の進むべき道を正し、地域医療再生のために全力で取り組むことを固く決意するものであります。

かかる状況の中で、平良先生、金城先生、平安先生におかれましては、何卒今後ともその卓越したご見識によるご指導、ご助言を賜り、県民が希求する安心・安全な医療の構築にお力添え下さいますようお願い申し上げます。

終わりに臨み、永年に亘って先生方を支えてこられたご家族の皆様には深甚なる敬意を表すると共に、皆様の今後ますますのご健勝とご多幸を祈念いたしまして、ご挨拶といたします。

業績紹介

真栄田篤彦那覇市医師会長



平良賀計先生沖縄県功労章受章に際し、主なご功績を簡単にご紹介させていただきます。

平良先生は、昭和19年9月台北帝大医学専門部をご卒業後、慶応

大学医学部精神科並びに埼玉県浦和保養院に勤務される傍ら、慶応義塾大学において学位を取得されております。

その後、劣悪な衛生環境や不十分な医療環境におかれた郷土沖縄の将来を憂いた先生は昭和33年に帰郷し、那覇市久茂地に中央神経科医院を開設され、翌34年には天久台精神科医院を開設されております。その後昭和43年には天久台病院を開設され、以来長年にわたって沖縄精神科医療の草分け的存在として、精神障が

い者の診療並びに社会復帰の促進に尽力され、本県の精神衛生事業の発展に大きく貢献されております。

先生は、沖縄本島のみならず、宮古、八重山等離島各地の無料巡回相談・診療を行い精神衛生の啓発普及に貢献されると共に、精神科医療設備の整備、医師及び看護師の養成にもご尽力されました。

また、沖縄県精神病院協会の設立並びに日本精神病院協会沖縄支部結成に尽力され、昭和52年4月から2期4年にわたって沖縄県精神病院協会長、日本精神病院協会沖縄県支部長を務められ、多年に亘りその幅広い活躍を通して沖縄県における精神衛生事業の推進、精神科医療の技術向上に貢献されております。

さらには、精神衛生審議会委員をはじめ、精神衛生鑑定医、沖縄県麻薬取締審査委員会会長、家庭裁判所調停委員・同参与等の公的機関の委員を務められ、本県の精神衛生行政にも大きく貢献されております。

また、平良先生は文学にも造詣が深く、沖縄県現代俳句協会の会長としても指導的活躍をされております。

以上のような数々のご功績が認められ、この度沖縄県功労章を受章されました。

平良先生におかれましては、今後も益々ご健勝でご活躍されんことを祈念いたしまして、簡単ではございますが業績紹介とさせていただきます。

この度のご受章、誠にめでとうございます。

名嘉勝男南部地区医師会長



金城幸善先生日本医師会最高優功賞受賞に際し、主なご功績を簡単にご紹介させていただきます。

先生は、昭和33年3月、札幌医科大学医学部をご卒業後、同大学内科学教室の助手を務められた後、昭和40年から平成8年までの31年間

の長きに亘り琉球政府立名護病院院長、沖縄県立南部病院初代院長、そして沖縄県立那覇病院院長と、各県立病院の院長の要職を歴任し、地域の中核病院として、また、救急医療、離島・僻地、高度・特殊医療等の政策医療を確保し、県民の保健・福祉の向上、発展に貢献されました。

名護病院長に就任された昭和41年当時、沖縄は極端な医師不足に加え、特に北部地区においては、医療基盤は脆弱で困難を極めておりました。そのような中、施設の整備と医療内容の充実を図り、当時40床規模であった施設を昭和50年には300床、昭和53年には医師数23名となり、更に昭和55年には総合病院へと発展させております。

さらに、離島診療所の派遣医師の確保が困難な状況から、韓国に渡って数名の韓国人医師を離島診療所に招くなど、離島医療の確保にも精力を注がれました。

昭和56年には環境保健部次長として南部病院開設に携わり、翌57年度には初代院長として就任されましたが、ここでも医師確保に難渋を極め、その確保のため北は北海道まで医師派遣の要請に奔走されました。

平成2年には那覇病院院長に就任され、皮膚科、心臓血管外科を新たに開設し、診療体制の更なる充実を図ると共に、離島からの救急ヘリ搬送のシステム作りにも積極的に取り組み、更には、救急救命士による心電図伝送訓練にも多大な貢献をされております。

県を退官された後は、平成13年に財団法人沖縄県総合保健協会の理事長に就任され、離島を含む県下全域の地域、学校、職域の健診および人間ドック等を実施し、疾病の早期発見と早期治療により予防医療事業の推進に活躍されております。

また、平成16年5月には県内の行政機関、学校、企業、保健医療関係者で構成する沖縄県禁煙協議会の設立に尽力し、禁煙についての啓発、支援活動を行い、那覇市の路上喫煙防止条例の制定や県内タクシー全面禁煙化の実施にも貢献しております。

以上のような数々のご功績が認められ、この度日本医師会最高優功賞を受賞されました。

金城先生におかれましては、今後も益々ご健勝でご活躍されんことを祈念いたしまして、簡単ではございますが業績紹介とさせていただきます。

この度のご受賞、誠にありがとうございます。

山内英樹浦添市医師会長



平安常良先生瑞宝小綬章受章に際し、主にご功績を簡単にご紹介させていただきます。

平安先生は、昭和34年3月長崎大学医学部を卒業後、昭和38年6

月平安医院を開業されました。

その後、昭和46年3月、平安先生のご令兄が急逝されたことから、その志を受け継ぎ平安病院病院長に就任されております。以来平成17年12月までの34年間にわたり、本県における精神科医療及び精神科障がい者福祉並びに、精神保健の向上に多大な貢献をされました。

平安病院長ご就任後は、当時の本県の精神医療状況に強く不安を抱かれ、先ず30床からはじまった病院事業を充実・拡張され、昭和58年には新館を建設されております。現在は393床と拡大、充実され、その間、精神科デイケアの開始や精神科作業療法並びに理学療法などの事業に積極的に取り組むとともに、生活訓練施設の併設などにより、精神障害者の治療のみならず社会復帰までも包括する精神科医療の中核病院として発展させてられました。

また、所属されている浦添市医師会は平成4年4月に設立されましたが、平安先生は初代会長に就任され、以来5期10年間にわたって会長として浦添市医師会の基礎を築きあげております。その間、糖尿病連携事業や病診連携事業の推進をはじめとして、浦添市との緊密な連携のもと、市民公開講座、3キロ減量市民大運動、予防接種健診事業に取り組んでられました。

現在、浦添市医師会は会員数、施設数共に設当初の3倍近い数を数えるまでに発展しており、その礎を築いてこられた平安先生のご功績は誠に大なるものがあります。

また、先生は数々の行政機関や精神保健関係の委員を歴任され、沖縄県社会保険診療報酬請求書審査委員として26年もの永きに亘り大きく貢献されております。更に、日本精神病院協会沖縄県支部長就任をはじめ、沖縄県精神病院協会会長、九州精神病院協会理事、九州精神神経学会評議員、沖縄県精神保健協会評議員、沖縄県地方精神保健審議会委員、沖縄県医療審議会委員等、精神保健行政の推進に多大な貢献をされております。

以上のような数々のご功績が認められ、この度瑞宝小綬章を受章されました。

数々のご功績がありますが我々が何よりも強調したいのは、先生のお人柄であります。

非常に誠実、篤実で大変穏やかな方で、我々のリーダーとして公私ともにご指導を頂いております。現在も平安病院名誉院長としてご活躍中ですが、今後ともの益々ご健勝でご活躍されんことを祈念いたしまして、業績紹介とさせていただきます。

この度のご受章、誠にありがとうございます。

祝 辞

奥村啓子沖縄県福祉保健部長

(代読：宮里達也保健衛生統括監)



平良賀計先生の沖縄県功労章受章、金城幸善先生の日本医師会最高優功賞受賞、平安常良先生の瑞宝小綬章の受章祝賀会が開催されるにあたり、ごあいさ

つを申し上げます。

平良先生、金城先生、平安先生、この度の栄えある受章、誠にありがとうございます。心よりお祝いを申し上げます。

平良先生におかれましては、帰郷後、昭和



33年12月に中央精神科医院を開設し院長に就任、翌年12月に現在の天久台病院を開設し院長に就任後、今日に至るまで沖縄県の精神薄弱児教育福祉対策の基盤整備と発展向上に取り組まれたほか、精神衛生事業に尽くされた功績、沖縄県精神病院協会長として重責を遂行された功績など、精神科医療の技術向上、沖縄県の精神衛生事業の進展等に大きく貢献されました。

金城先生におかれましては、昭和41年6月に琉球政府立名護病院院長をはじめ、沖縄県立南部病院長、県立那覇病院長を歴任され、沖縄県民の保健・福祉の向上、発展に貢献されました。また、平成13年10月から財団法人沖縄県総合保健協会理事長に就任され、沖縄県民の予防医療及び健康保持増進に大きく貢献されました。

平安先生におかれましては、昭和46年に平安病院院長に就任後、今日まで沖縄県における精神科医療及び精神障害者の治療、障害者の福祉向上、精神保健の向上に大きく貢献されました。

また、初代浦添市医師会長、日本精神病院協会沖縄県支部長、沖縄県精神病院協会長などを歴任し、精神保健の推進に大きく貢献されました。

平良先生、金城先生、平安先生の長年にわたる医療、保健、福祉の向上に対する多大な貢献に対し深く敬意を表しますとともに心から感謝申し上げます。

沖縄県におきましては、今後とも患者の視点に立った医療の確保や予防対策の推進並びに地域医療の質の向上と切れ目ない医療提供体制の整備に取り組み、総合的な保健医療体制の確立に努めていきたいと考えております。

宮城会長をはじめ、沖縄県医師会の皆様には、

なお一層の御支援、御協力をよろしくお願い申し上げます。

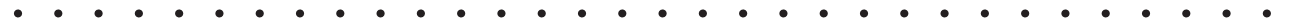
結びに、平良先生、金城先生、平安先生の今後ますますの御健勝と御活躍並びに会場の皆様の御健勝と沖縄県医師会の御発展を祈念申し上げます。お祝いの言葉といたします。

平良賀計先生謝辞（代読 平良直樹先生）



私は台湾の台北帝大医学専門部を卒業いたしました。それも戦争のため繰り上げ卒業という形ですぐに徴兵され、そのまま戦地に赴きました。

部隊長の命令で数人で斥候に出されましたが、帰ってみると部隊は全滅状態でした。何故私が生き残り戦友は死んでいったのか、今でも理解できない運命のいたずらでした。終戦後は、宮古島で主に外科系の医療を中心に行っていました。昭和23年に結婚し、24年には長女が生まれ、26年に妻娘を連れて宮古島を離れ上京しました。そこで大森赤十字病院整形外科に勤務し、何の計画性もなく給料の高い病院へと転々とし、明日の食^{ぶち}い扶持の保証もなく、家庭を顧みず妻には本当に苦勞をかけた



平良賀計先生、正子夫人と会員の方々



平安常良先生、哲子夫人と会員の方々



金城幸善先生と会員の方々



と思います。

その後、色々な人との出会いがあり、慶應の精神科医局に入局し本格的に精神科医として歩むことになりました。元来、音楽や芸術に関心があり心理学や精神科にも魅力を感じていました。医局には北杜夫や、なだいなだという後の有名な小説家も在籍しており、私の文学心も大いに刺激されました。学術面でも著名な先生方の薫陶（くんとう）を受け博士号もとることができ人生の大きな転換期となりました。

昭和33年に沖縄に帰り、病院センター通りと呼ばれる開業医の集中した美栄橋に中央神経科という名称で診療所を開設いたしました。開業にあたり那覇市医師会の先生方には大変お世話になりました。

翌昭和34年に現在の天久の土地を購入し、天久台病院の前身である天久台精神科を開設いたしました際にも、諸先生方には多くの面でご高配いただき感謝の念に絶えません。その後、障がい児教育や司法精神医学などに関わって参りましたが、今回の受章も医師会の先生方のお支えがあってこそだと深く感謝申し上げます。今では後期高齢者を過ぎ末期高齢者となる身ですが、諸先生方にはこれからも変わらぬご指導、ご鞭撻、ご支援をお願い申し上げ御礼のご挨拶とさせていただきます。本日は、誠にありがとうございました。

金城幸善先生謝辞



本日は私達のために、かくも盛大に祝賀会を開催して戴き感謝にたえません。去った8月に日本医師会から最高優功賞受賞の通知を受けた時本当にびっくり致しました。本来この賞は医師会活動に貢献された方々が受賞されるものだとばかり理解していました。受賞理由として「地域医療提供体制の確保と保健活動に努められた」となっておりました。

公費留学生はインターン修了後直ちに帰省して公的医療機関に勤務することが義務づけられておりました。私達の頃に大学院更に大学の教職に就けば義務延期が認められました。医師として或る程度技術を身につけるまで修練を積む必要性を痛感していましたので、6ヶ年間大学に残ることになりました。

昭和40年に帰省しましたが、当時の公務員医師数は90名程度で数年間殆ど増減がなく平均勤続年数は4ヶ年程度でした。中部病院、那覇病院でも定数は12～13名程度でその他の施設は数名程度でした。私は名護病院勤務を命ぜられました。病院病床は結核20、一般病床20床で医師定数は2名でした。

しかも私が配置されたのは、前任の外科医が開業に転じたため員数合わせとして配置されたようなもので、2名共内科医でした。その翌年院長が開業することになり必然的に私が院長に就任することになりました。その年突然米民政府は300床規模の病院建設を着手しました。規模は示されたもののマスタープランもなく、しかも保健所裏の空き地を利用することとなり、





単年度毎の予算執行となりました。まずは管理棟の建築に着手し、すべての病床が完成し各種専門医の確保及び機器整備が備わり総合病院としての業務展開が可能になるまでに開始から大凡15ヶ年間要したことになります。

復帰後県は各地域の医療の充実を図るべく、医療圏域を設定し、県立の中核病院を作ることになり、南部地域に南部病院を設置することになりました。当時私は名護病院での役割を一応果たしたものと考え、異動を希望し、南部病院運営に参画することになりました。開設は昭和57年でしたが、300床規模の病棟は完成していましたが医師及び看護要員の確保が困難で内科、外科、小児科の3科150床でスタートすることに致しました。

ここでも各科専門医の確保が県内では充足出来ず、本土の各大学や公立病院からの応援を得て5ヶ年後には9科30名の医師を確保し、総合病院として活動することができました。尚南部病院では入院患者の診療に留まらず、院内外のコミュニティー活動にも取り組みました。院外活動として年1回南部地域の各市町村を巡回し、日曜日に病院各科を総動員して無料健診、健康相談及び健康教育を職員も無料奉仕で実施いたしました。これは通常の平日の健診には受診する機会の少ない勤労中年層を対象とし、実際実施してみますと受診者の大半はその年齢層でした。さらにこの活動は住民に疾病予防の重要性を認識してもらうこともねらいとしました。

南部病院の更なる充実発展に取り組もうとした矢先、那覇病院長の山内先生の退任によりその後任として赴任することになりました。以上のように私は公務員医師として上司の命を受け、北部及び南部地域の病院の基礎づくりに参画して参りました。今回の受賞もその活動に対して与えられたものだとしますとこれは私一人が受けるべきものではなく、共に苦勞した全職員への賞として有難く拝受することにいたしましたと考えます。

現在私は健診機関の一つである総合保健協会に勤務しており、健診を通して生活習慣病対策

のあり方について一次予防の重要性を痛感しております。当協会に勤務した頃、たまたま我が国のアンチエイジング研究会が発足し、その後アンチエイジング学会に発展、本年10回目の学会が開催されました。学会ではアンチエイジング医療の健全な普及発展のため専門施設認定を平成18年に実施致しました。幸い当協会も最初の認定施設の10カ所の一つに認められました。目下内容の充実に取り組んでいます。当県の長寿復活の一助となるべくアンチエイジング医療の普及に努めたいと考えています。今回の受賞に際しましては多くの先生方から沢山のご祝意を戴き心から感謝申し上げます。



平安常良先生謝辞



本日は、平素より私が尊敬しております大先輩の平良賀計先生、金城幸善先生と共にお祝をして頂き有難う御座います。

平成22年秋の叙勲で、囚らずも瑞宝章瑞宝小綬章の栄に浴いたしました。去った11月11日には厚労省にて勲記、勲章を授与され、引き

表 彰

続き家内共々宮廷に参内し天皇陛下に拝謁の栄を賜り、私共夫婦にとりましてこの上もない光栄なことであります。これも一重に、長年に亘る多くの先生方のご激励、ご指導の賜だと厚く感謝申し上げます。

私は日本復帰後、当時、医者が少なかったこともあり、支払い基金の審査委員、精神科病院協会理事並びに同会長、更に、浦添市医師会初代会長、その他県や市の色々な委員や囑託等、実力以上のことをさせられてきましたが、県医師会の先生方や、平良賀計先生初め、精神科の先輩の先生方並びに沖縄県・浦添市の行政の方々のご指導ご鞭撻により、無事、大過なくその職責を全うすることが出来ました、そのことが評価されて叙勲の栄に浴したものだと思心より感謝いたしております。

本日はご多忙の中、奥村沖縄県福祉部長のご名大としてご出席下さいました宮里達也統括監に過分なご祝辞を頂き、また、浦添市医師会会長山内英樹先生には身に余るご紹介をしてもらい有難うございました。

このような盛大な祝宴を開催して下さいました県医師会会長宮城先生並びに、医師会の職員の方々にも改めて感謝いたします。

今後は、この章に恥じないように、尚一層努力して沖縄県の精神科保健福祉のために尽くしてまいりたいと思います。今後とも倍旧のご指導、ご支援を下さいますようお願いいたします。

最後になりますが、ご出席の皆様様の益々のご繁栄と、御健勝をお祈りいたしまして御礼の言葉とさせていただきます。

